

手作りおもちゃ –指先の発達や友だちとの関わりを促す遊び–

春木保育園 山下 美智子

1, はじめに

毎年、子どもの興味や関心、行事や活動、一人一人の発達を捉えて作っている手作りおもちゃ。初めておもちゃを手にした子どもたちの目の輝きや表情、感触を味わう姿を想像しながら作っていく時間は、保育への意欲にも繋がっている。「こういう風に遊んでほしい」という思いを込めて作ったおもちゃが、子どもたちの自由な発想で、様々な遊び方ができるおもちゃになっていく様子も、自身の大きな刺激になっている。既製のおもちゃの良さもあるが、何でも手に入り、スマホやゲームなどでの遊びが低年齢化しているこの時代に、手作りの暖かさや優しさを子どもたちに伝えていきたい思いで実践に臨んでいった。

2, 手作りおもちゃの設定

「手指の発達」「一人から友だちと」に焦点を置き、未満児クラスで、幾つかの手作りおもちゃと触れ合う姿を実践していく。玩具の種類では、ストローやスポンジなどを使っているものもあるため、誤飲に十分注意していくなど遊びの環境を整え、子どもたち一人一人が自分なりのイメージを持ち、様々な遊び方で楽しめるようにしていった。

3, 遊びの実践例

(1) スポンジ落とし (もぐもぐ, おいしいね)

ねらい・・・握る, 掴む, 摘まむ, 押し込むなど手指の発達を促していく。

材料・・・ふたに絵を付けて, 口の部分に穴をあけたタッパー。

様々な形に切ったスポンジ

〈0歳児〉

自分の目の前にあるスポンジを掴んだり握ったりした後、口に持っていきこうとする。保育士に手を支えてもらい一緒に絵の口のところまで持っていくと、穴があることに気づき腕を動かして押し込もうとする。中々入らず保育士の顔と穴とを交互に見つめ「入れて」と言わんばかりに声を出している子もいる。月齢が高い子どもは、穴があることを理解し、握って押し込もうとする。保育士がさりげなく手伝い穴に入ると、笑顔を向け嬉しさを共有し「もういっかい」というような動作をして繰り返し遊んでいた。

〈1歳児〉

握って入れようとするが、入らないことがわかると摘まみ直して口(穴)に入れようとする。押し込み、力づくで入れる子どももいる。タッパーがいっぱいになると、自分でふたをとりスポンジを取り出して繰り返し遊ぶ子どももいる。

ふたに付いている犬や猫などの動物や人に興味を示し、自分なりのイメージを持って「わんわん」「もぐもぐ」「おいしい」



など声を掛けながら、スポンジを穴に入れていく（食べさせる）姿が見られた。また、保育士と一緒に食べさせたり、しぐさや単語等を通してやり取りをしたりしながら遊ぶ姿があり、おもちゃを介して簡単なごっこ遊びになっていた。

（2）ストロー通し

ねらい・・・手と目の協応や、掴む、摘まむなどの手指の発達を促していく。

材料・・・ペットボトル（はんだごてでストローに合った穴を数か所開ける）

4, 5センチに切ったストロー（色付きの物）

ストローを入れる箱（牛乳パックを10センチの高さに切った物）

〈1歳児〉

家庭での経験から、ペットボトルはふたを開けて飲み物を飲むものと理解しているのだろう。ふたを開けることに興味を示しストローに目を向けない子がいる。まず、保育士が目の前でして見せ遊び方を知らせていく。遊び方が分かるとストローをペットボトルの穴に入れようとするが、空の不安定なボトルにたくさんストローを握って入れようとするため、倒れてなかなか入らない。また、ストローを一つつまんで穴に入れるのも難しくたくさん握ってしまう。

繰り返し遊んでいくと、自身の膝に置いてペットボトルを固定し、上を向いた穴に入れようとする子どもが出てきた。また、指先でつまんで入れようとするようになり、穴に入ると「できた!」と言わんばかりに保育士の顔を見て笑顔で思いを共有しようとする。穴に通すことが難しく、でも入れたい思いが強い子どもは、ふたを開けてその大きな穴から次々にストローを入れ、保育士に見せて喜んでいた。

〈2歳児〉

遊び方を理解するのが早く、指先を使って一本ずつストローを掴み、目的の穴に入れることができていた。ストローの色に興味を示し、好きな色を集めて入れていく子、全部の穴から入れようとペットボトルを器用に回転させて入れていく子、ストローを入れたペットボトルを振って出る音に興味を示す子など、自分なりの発想で遊ぶ姿が見られた。



（3）クリップ遊び

ねらい・・・指先の力を使って物を挟んだり、自分なりのイメージを持って組み立てたりして遊ぶ。

材料・・・クリップ

いろいろなキャラクターをモチーフにしたシート

〈2歳児〉

指先の力がつき、クリップ遊びに興味を示してきた子どもたち。長く繋げる遊びが繰り返されたので、自分なりのイメージを持って遊びが発展するようにと子どもたちの好きなキャラクターでクリップのシートを作った。

経験や体験を通して、ただ顔だけのライオンや人、キャラクターに自分なりにイメージしたたてがみや髪、手足などを付けて友だちと見せ合う。色に興味を持っている子どもは、色を揃えたり好きな色を交互に使ったりして自分の発想で遊ぶ。できたもので友だちとやり取りしたりごっこ遊びをしたりするようになる。

クリップが物と物とを繋ぐものと理解した子どもが、ごっこ遊びのコーナーづくりで牛乳パックの囲いを繋げ、大きな家を作って遊ぶようになり、周りの子どももその姿から学び、真似て遊ぶようになっていく。



(4) 金魚釣り

- ・ねらい・・・友だちと一緒に季節の遊びを楽しみながら、目と手を協応して遊ぶ。
- ・材料・・・カラーケント紙・モール・広告を丸めて作った釣り竿（針の部分はモール）

〈2歳児〉

「パパが釣りに行った」「お魚、見に行った」などの声が出てきたので、友だちと一緒に遊べる魚釣りの遊びを取り入れてみた。遊びのコーナーを作っていると、「これしたことある!」「針がついちよんのでな!」と我先に釣り竿を手に取り遊び始める。紐が揺れないように集中し、魚についているモールの輪にひっかけて釣れると、「見て!釣れた!」と大喜び。その姿に触発されて他の子どもたちも真剣な表情で黙々と取り組んでいる。自分の方がたくさん釣れたと自慢する姿もあり遊びは続いていたが、よく見ると紐の先を持ってモールをひっかける姿や、魚を手に取りそこでモールを直接ひっかけている子どももいる。なかなか釣れない友だちの手を取り手伝う姿が関わりと取れるが、遊びの様子を見守っていると子どもたちがイメージを持ち遊びを展開させるには、少し難しいと感じた。

釣り竿の紐の長さや魚のモールの輪の大きさ、釣り針のモールの長さ・角度などが子どもの発達に沿っていないことがわかった。紐を短くしたり輪を大きくしたり、モールの部分を磁石にしたりするなどの工夫が必要だったことがわかった。



(5) 絵合わせ積木・パズル

- ・ねらい・・・保育士や友だちと積んだり崩したりする中、様々な思いを共有して遊ぶ。
繋げたり、組み立てたりして自分なりのイメージを持って遊ぶ。
好きなキャラクターを集めたり揃えたりして遊びながら考える力を育む。
- ・材料・・・牛乳パック・新聞紙・色紙・色々な素材のプリント・テープ類

〈1歳児〉

好きなキャラクターを見つけると喜んで持ち歩いたり集めたりしている。名前を言いながら並べていくが、絵を揃える姿は見られない。自分で積んで遊ぶ姿は少なく、保育士が高く積んだ積木を壊しては、周りの友だちと思いを共有して笑いあっている。

繰り返し遊ぶうちに自分で高く積もうとする姿が見られるようになる。保育士が手伝っていると興味を示した友だちも積木を支え始め、遊びに一体感が生まれてくるが、他の友だちから壊されてしまう。

パズルは難しいようで、偶然できた絵を喜んでいいる。トンネルのように立てて、車を通して遊ぶ姿がある。

〈2歳児〉

自分の好きなキャラクターの面を揃えて並べたり、形をイメージしながら積んだりしていく。また、友だちと共同で形を作ったり高く積んだりして遊ぶ。高く積んだ数にも興味を示し保育士と一緒に数え、多くの積み木を積もうと自分なりの目標や見通しを持って遊ぶ。

パズルの意味を理解し、考えながら組み立てていき、完成した絵を友だちと見せ合って喜ぶ子どもも見られた。その姿を見て真似たり、友だちに「して」と言って教えてもらったりし、関わりが広がっていた。



(6) ボタン遊び

- ねらい・・・遊びの中で、ボタンの使い方を覚える。
友だちとやり取りしながら、同じものを揃えたり長く繋げたりして遊ぶ。
- 材料・・・フェルト・綿・糸・ボンド・ボタン・ゴム

〈2歳児〉

2歳児クラスも半ばになり、生活や遊びの中でボタンやスナップを留める機会が増えてきた。秋の自然に触れて遊ぶ姿から、秋の果物や木の実を主に、フェルト小物を繋げて遊ぶ手作りおもちゃを作った。ゴムを伸ばしてボタンを通す動作に苦戦しながら集中して遊ぶ子どもたち。一つまた一つと繋げていき、自分なりに納得するとほっと一息つき「見て！」と得意げな表情で友だちに自慢する子どももいる。暫くすると、自分の気に入った木の実や果物を集め、同じ種類で繋げていくよ

うになる。友だちと同じものを集めていたり、自分の思う長さにならなかつたりすると、「かえっこしよう」「かして」「こっちの集めたら？」など自分たちで話し合いながら繋げていく姿も見られた。友だちと一緒に長く繋げたり、首飾りや腕輪のように身につけたりして遊ぶ姿が見られるようになったので、もう少し数を増やしたり、次の段階で、ボタンホールのあるおもちゃも考えていきたいと思う。



4、遊びを通して気づいたこと

- ・一つの手作りおもちゃでもそのねらいや提供の仕方で、年齢や発達に応じて幾通りもの遊び方があることが改めてわかった。
- ・生活や遊び、子どもの姿に手作りおもちゃを作るヒントがたくさんあり、それを拾っていくには、子どもたちが今表現しようとしている姿や思いを十分にくみ取っていくことが大切だと感じた。
- ・お金をかけた材料でなくても、様々な廃材、素材を使って作ることで、子どもには自由に発想し、自分なりのイメージを持って遊びを展開していく力があるということがわかった。

5、おわりに

1, 2歳児の手先は、家事用のゴム手袋を二枚重ねて使う感じに似ていると聞いたことがある。そんな拙い指先で一生懸命何かを掴もうとしたり、絵本のページをめくろうとしたりする姿がとても愛おしい。

私たち保育士はその子どもの姿に寄り添い、今この子にどんな援助が必要なのかを常に考え、様々な経験ができるよう環境を整えていく役割がある。成長を後押しし、人と関わっていく力の手助けになるよう、温かく優しい、そして心に残る手作りおもちゃをこれからも作り続けていきたい。

